

(記入例1 R C造校舎)
耐震性能判定表

事業名	大規模改造(補強)事業		都道府県名	〇〇県	都道府県番号	〇〇
番号	〇〇	設置者名	〇〇〇市		学校名	〇〇〇小学校
建物区分	(校舎)	屋体	寄宿	階数	3	構造の種類 (RC) S SRC W その他()
耐震性能の診断の対象となった棟	棟番号	建築年	面積		左のうち今回診断対象分	
	2-1 2-2	S49年2月 S52年7月	1,500 700 計 2,200 m ²		2,000 m ²	
適用した方法	(第2次診断) 屋体診断基準 その他()					
診断実施者名	(株)〇〇設計 〇〇		左の持つ資格名	一級建築士(登録番号 〇〇〇号) 耐震診断講習会 受講番号 〇〇〇		
コンピュータソフトを使用した場合そのソフト名、作成者名	〇〇〇〇〇〇, 〇〇 〇〇					
判定委員会の名称	〇〇〇〇〇〇判定委員会					
I s (I w)又は q (CruS _D)が不足の方向・階	けた行き			はり間		I s (I w)が最低の方向・階
	(1階)(2階)3階 4階 5階			(1階)2階 3階 4階 5階		
I s (I w)、q (CruS _D)各指標の最低値			建物全体の補強・改修内容について			
耐震性能に係る各数値	既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、()内に箇所数を記入			
E _o	0.57	0.95	RC壁 : 増設 (3) 補強 (1)			
F _{es} (S _D)	1.28	1.05	RCそで壁 : 増設 (5) 補強 ()			
	0.81	0.91	RC柱 : 増設 () 補強 (2)			
T	0.98	1.00	ブレース : 増設 (12) 補強 ()			
			耐震スリット : 増設 (4)			
Z	1.0	1.0	基礎 : 増設 () 補強 ()			
R _t	1.0	1.0	荷重軽減 : 軽減箇所名 (防水押さえコンクリート)			
I s (I w)	0.45	0.90 0.86	[EXP. J を拡張 50→200]			
q (CruS _D)	0.28	0.53				
コンクリート強度	20.8					
補強工事全体事業費(老朽・質的整備等は含まない)	〇〇, 〇〇〇 千円		内、耐震診断分(補強設計含)	〇, 〇〇〇 千円		
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見	診断を終了した日		H〇〇, 〇, 〇			
既存建物の耐震性能の評価	強度、靱性共に低い建物であり、特にけた行き1階は耐力壁が少なく、また第2種構造要素もあることから、I s値が低くなっている。					
補強設計と補強後の耐震性能の評価	1階南面にブレースを増設し、強度増加型の補強を行った、また第2種構造要素の柱に耐震スリットを設け、その柱を鉄板巻きで補強したため十分な耐震性能を確保することができた。					

(注) 本判定表は、構造別に作成する。